



音声・嚥下障害の治療

保健福祉学部 コミュニケーション障害学科
准教授 田口 亜紀 (たぐち あき)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4425号室
Tel 0848-60-1120 Fax 0848-60-1134
E-mail akiaki@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 耳鼻咽喉科学, 音声言語医学, 喉頭科学

キーワード： 音声障害, 嚥下障害, 音声治療, 喉頭微細手術

● 主な取り組み・活動

平成30年4月より前任の土師教授の後任として参りました。それまでは、愛媛大学、松山赤十字病院耳鼻咽喉科にて、約20年間主に音声と嚥下の外来に携わってきました。

音声に関しては、特に嗄声(声のかすれ)の患者さんに対する音声のリハビリテーション(音声治療)をライフワークとして行ってきました。声の酷使によって生じる声帯結節などの発声障害や、声の老化現象の一つである声帯の萎縮などでおこる嗄声に対して、リハビリによる音声の改善に取り組んでいます。もちろん、手術が必要な患者さんに対しては喉頭微細手術も数多く手がけてきました。

また、高齢化社会により、誤嚥性肺炎の増加が近年問題になっています。内視鏡下嚥下機能検査にて、嚥下機能の評価を行い、経口摂取可能かの判断、胃瘻造設の必要性の検討などをおこなってきました。

本学での主な活動は、聴覚、音声言語障害、構音障害や嚥下障害のリハビリに関わる言語聴覚士の育成です。これまでの経験を生かして耳鼻咽喉科・気管食道科医の立場から、今まさに必要とされる人材を育てていきたいと思っています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

附属診療センターでは、毎週木曜日、耳鼻咽喉科外来を設けております。地域の医療機関と密な

連携を築き、今までの臨床経験を生かした声の障害、嚥下の障害、聞こえの障害について専門的に診断し、適切な治療方針を提示します。声帯ポリープなど手術が必要な患者さんは連携医療施設で喉頭微細手術を行いたいと思っています。

また、言語聴覚士とともに音声・嚥下のリハビリテーションを積極的に行うつもりです。音声治療はもちろんの事、日常生活に対する声や嚥下の衛生指導、声のアンチエイジングなどについても患者さんたちに指導できればと思っています。

● 今後の目標・抱負

これからどんどん高齢化社会は進みます。加齢による嗄声や、認知症や脳梗塞による嚥下障害、誤嚥性肺炎の患者さんも増加する一方です。

そこで、まだ具体的にはきまっておりませんが、三原市やその近郊の老健施設などを訪問し、摂食指導、嚥下機能検査、声の衛生指導などを行えばよいかと思っています。

また、研究テーマとしては三原市及び周辺の高齢者に対する誤嚥予防策について考えていこうと思っています。

